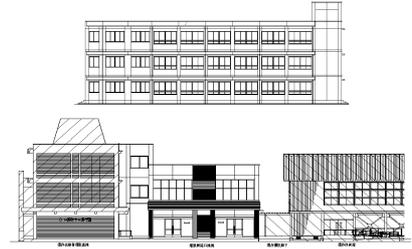


# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

| 1-1 建物概要 |                       | 1-2 外観 |                |
|----------|-----------------------|--------|----------------|
| 建物名称     | 日野町立義務教育学校建設工事        | 階数     | 地上3F           |
| 建設地      | 鳥取県日野郡日野町野田271番地      | 構造     | RC造            |
| 用途地域     | 都市計画地域外、用途地域指定なし      | 平均居住人員 | 150人           |
| 地域区分     | 4地域                   | 年間使用時間 | 2,000時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 学校                    | 評価の段階  | 実施設計段階評価       |
| 竣工年      | 2023年2月 予定            | 評価の実施日 | 2022年5月25日     |
| 敷地面積     | 13,869 m <sup>2</sup> | 作成者    | 松山 久           |
| 建築面積     | 967 m <sup>2</sup>    | 確認日    | 2022年5月26日     |
| 延床面積     | 2,106 m <sup>2</sup>  | 確認者    | 松山 久           |



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.4** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

### 3 設計上の配慮事項

| 総合  | その他   |
|---|---|
| 木材利用による快適な環境の創出のため、教室棟等の内装には、木材をできるだけ使用し、温かみのある環境づくりに努めている。       | 特に無し。   |
| <b>Q1 室内環境</b><br>建築材料は、規制対象外の建材及びJIS規格のF☆☆☆☆を採用している。             | <b>Q3 室外環境(敷地内)</b><br>特に無し。                              |
| <b>LR1 エネルギー</b><br>断熱性の高い建材を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮する。                   | <b>LR3 敷地外環境</b><br>ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の抑制に配慮している。 |
| <b>Q2 サービス性能</b><br>耐用年数の長い配管材料を採用し、建物の耐用性の向上に配慮する。               |   |
| <b>LR2 資源・マテリアル</b><br>自動水栓・泡沫水栓、節水型便器を全体器具・水栓の半分以上採用し、節水に配慮している。 |   |

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される